

Happy New Year 2026

みなさん、あけましておめでとうございます。本年も、どうぞよろしくお願ひいたします。いよいよ、2026年がスタートしました。冬休みは、どうでしたか？私は、今年も初日の出を大好きなビーチから見ようと出かけましたが、曇っていて見られなかったのは残念でした。しかし、今年は元旦マラソンにチャレンジしました。たかが2kmです。しかし、前の日の睡眠不足のせいもあり、しんどかったのですが、新年早々、早起きをして身体をいじめたことは、なんか気分が良かったです。



年末に、娘と書店に行ったときに、本屋さんの素敵なお品に心惹かれ久しぶりに書店で本を数冊ほど購入しました。（いつもはネットでワンクリック購入なんですが…）その中の一冊を紹介したいです。百瀬昭次さんという方が「君たちは偉大だ」という本を書いています。今日は、2026年の第1号ということもあり、その中の「今日という一日」という文章を紹介します。

東の空が白んできました。今日という一日の夜明けです。自然界は今日もまた、わたしたちに新しい夜明けを運んできました。すがすがしい冷気の中にたたずんで、眠りからさめていく野山や大空を眺めていると、何とも言えない不思議な気持ちがこみあげてきて、莊厳で、とても感動的です。昔の人が夜明けのことを、「曙」とか「黎明」という美しい言葉で表現している気持ちが、よくわかるような気がします。大地の底から湧きあがってくる生気が全身にみなぎって、思わず身の引き締まるのをおぼえます。今日という一日が始まったのだという実感がこみあげてきます。



みなさんは1年を通じて、この夜明けの感動を、何回味わったことがありますか？毎朝暗いうちに起きて働いている人をのぞけば、ほとんどの人が味わったことはないのではないでしょうか。それどころか朝寝坊を決め込んで、学校に間に合う時間ぎりぎりまで眠りこけている人もいるのではないかでしょうか。

昔から「早起きは三文の得」という言葉がありますが、この諺を知っていて、そのように実行している人がいるとしたら、それはたいへんすばらしいことです。恐らく、たいがいの人が知っていても、どこかに置き忘れてしまっているのではないでしょうか。

諺というものは、人間にとってはいつの時代でも、役に立つ価値をもっている言葉です。言い換えれば、わたしたちにとっても、基本的な大事な真理を述べているということです。ところが人間は、使い古されたり、いい古されたりしたものは、粗末に扱う習慣があって、諺もその例にもれず、ないがしろにされているのです。

裏面に続く

しかし、真理はあくまでも真理であって、古いとか新しいとかにかかわらず、常に光り輝くものです。ドイツの詩人で偉大なる哲学者であったゲーテ（1749～1832）は私たちに次のような名言を残しています。「あらゆる賢いことは既に考えられている。ただ、我々はそれをもう一度考えてみなければならない。」つまり、わたしたち人間が生きていく上に必要な基本的知識は、遠いギリシアの時代から今日までの間に出てきているが、それらはまだ生活の知恵として十分生かされていないものが多い。だからこそ、それらの古い知識をもう一度考え方直してみる必要がある。そうすれば人生に大事な生活の知恵が発見されるだろうと、ゲーテは教えているのです。



また、「物はすべて始めと終りが肝心である」と、よく言われますが、わたしたちの人生も誕生に始まって死に終わることは、誰しも認める事実です。ですから、特に神聖なものとして扱われていますが、一日の始まりと終わりの方は、さっぱり大事にされていません。そもそも人生とは、この一日一日の連続にほかならないのです。その積み重ねがわたしたちの歴史を創りだしているのです。この簡単な哲理をおろそかにして、一日一日を粗末にしているというのは、どれほど多くのものを失っているかわかりません。

「地球は今日もまた、わたしたちのために、すばらしい朝を与えてくれた。その感激を無事に迎えることができた自分は、何と幸福なことであろう。この喜びをもって、今日一日を存分に生きぬかなければならぬ。どうか今日も、すばらしい一日であるように。」と、心にいい聞かせながら、ベッドからはね起きて、冷たい水で顔を洗ってごらんなさい。そして、すがすがしい大気の中に身を置いて、今日が始まる前の一時を、深呼吸でもして味わってみることです。それがどれほどすばらしいものか、しみじみと肌身に感じることでしょう。

このように心の準備をしてから、その日のスタートを切ると、朝寝坊を決めこんで登校時間ぎりぎりまで寝ているのとでは、その違いがどれほど大きいものであるか、よく分かるのではないかと思います。

「今日はきっとすばらしい一日になる」と、同じ言葉を心の中で五回もくり返し唱えるということは、その日が言葉の通りになるようにと、自分で自分に働きかけていることなのです。わたしたちが心の中で、思ったり、考えたり、想像したりすることは、たいへん重要な意味をもつていて注意していただきたいのです。一日の始まりを全く意識せずに、いつ始まったかわからないような生活をすることは、その日一日が人間らしさを失っているといつても過言ではないでしょう。「朝寝坊は時間の出費である。これほど高価な出費はない。」とアメリカのジャーナリストのデール・カーネギーは言っています。また、ベンジャミン・フランクリン（1706～1790）も、「今日という一日は、明日という二日分の値打をもっている。」と述べています。いずれも、わたしたちが、満足のいく一日をすごすためには、まず早起きして、その日の活動体制を整えることが肝要だと教えているのです。

さあ新たな1日に希望をもって目覚め、一生に1回の中学生生活を意味あるものにしましょう。



人生とは今日一日のことである
時間という概念 | デール・カーネギー

